

## A case of young woman who presented with bilateral renal artery stenosis

Saiseikai Yokohama-City Eastern Hospital, Japan

Yohsuke Honda

症例は 23 歳女性。ネフローゼの精査に当院腎臓内科紹介となった。経胸壁心臓超音波検査にて左室収縮能 21%と瀰漫性の壁運動低下、降圧薬二剤内服するも収縮期血圧 180mmHg 程度の難治性高血圧を認めたため、当科紹介。体表超音波検査にて右腎動脈の完全閉塞、左腎動脈の高度狭窄を認め、患者背景から繊維筋性異形成が疑われた。両側腎動脈狭窄(RAS)による Cardiac disturbance syndrome、ネフローゼを呈していると判断されたため、血管内治療を行う方針とした。平成 25 年 1 月 17 日右腎動脈完全閉塞に対して血管内治療を施行。起始部からの完全閉塞であり、造影上は起始部が全く判別つかないため、下行大動脈に血管内超音波(IVUS)を留置しながら起始部を同定しワイヤークロスを行った。ワイヤークロスの後は distal protection 下にバルーン拡張を行い、良好な拡張を得た。二期的に 1 月 24 日左腎動脈狭窄に対して血管内治療を施行。バルーン拡張を行い、こちらも良好な拡張が得られた。両側の血管内治療を施行した後は、血圧管理も次第に容易となり、心機能に関しても左室収縮能 45.7%と急激な改善を認め、RAS の改善により心機能の改善が得られたと判断した。両側腎動脈狭窄から Cardiac disturbance syndrome、ネフローゼを呈し血管内治療の成功にて両者の改善を得た若年女性の一例を経験したので報告する。